

主任介護支援専門員の方へ

令和8年度から主任介護支援専門員更新研修で 使用する様式を変更します

主任介護支援専門員更新研修で使用する「主任介護支援専門員の指導記録票」を
令和8年度から変更することになりましたのでお知らせします。

旧様式と新様式は、別紙のとおりです。

なお、香川県ホームページの「ケアマネジャー支援情報」から様式のダウンロード
が可能です。

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/choju/choju/caremane/kfvn.html>



令和8年度以降に主任介護支援専門員更新研修を受講する予定の方は、受講に向
けた計画的な準備をお願いします。

お問合せ先

香川県健康福祉部長寿社会対策課
介護人材グループ
TEL:087-832-3275



主任介護支援専門員の指導記録票

記録年月日： 年 月 日

所属			主任介護支援専門員氏名		
介護支援専門員の所属・氏名	所属			対応回数（1事例に対する） 回目	
	氏名				
指導日時 （開始時間） （所要時間）	令和 年 月 日（ ）			指導方法	
	AM・PM	時	～	分	面接 電話 その他
主訴（要点）					
経緯					
介護支援専門員はどうしたいのか。 （相談内容の詳細）					
指導の内容 （指導の具体的内容）					
指導に対する 介護支援専門員 の変化・反応					
指導の評価 （成果）					
備考					
添付書類	計画書・アセスメント・担当者会議記録・その他（ ）				

主任介護支援専門員の指導記録票

記録年月日： 年 月 日

主任介護支援専門員としての指導支援期間	
バイザーとの関係性	

■バイザーについて ※バイザーとバイジーのやりとりの中で捉えたこと

基礎資格		介護支援専門員としての経験年数	
強み・良さ			
苦手なこと			

■バイジーの課題

バイジーがこの事例で抱えている介護支援専門員としての課題	
バイザーがこの事例で抱えている介護支援専門員としての課題（成長すべき課題）	

■指導支援の経過

年月日	バイジーの事例に対する働きかけ・困りごと	バイザーの理解・判断・働きかけ

※枠が不足する場合には、適宜追加して作成してください。ただし、この指導・支援シートは、全部で2ページになるようにしてください。

■バイザーの振り返り ※指導支援を通して

うまくいった点	
苦慮した点	
自分自身の強み	
バイザーとしての 成長課題	

この様式は、一般社団法人茨城県介護支援専門員協会が作成したものを使用しています。

主任介護支援専門員の指導記録票

記録年月日： 令和● 年 ● 月 ● 日

主任介護支援専門員としての指導支援期間	令和 5 年 1 2 月から令和 6 年 3 月まで
バイザーとの関係性	同法人内の居宅介護支援事業所

■ バイジーについて ※バイザーとバイジーのやりとりの中で捉えたこと

基礎資格	介護福祉士	介護支援専門員としての経験年数	1 2 年
強み・良さ	これまで特養、老健での施設ケアマネの経験があり、施設ケアマネジメントの知識がある。		
苦手なこと	事例の展開が早い、動きがある支援は、対応が後手になることがあった。		

■ バイジーの課題

バイジーがこの事例で抱えている介護支援専門員としての課題	民生委員や近所の方から次々と状況の連絡が入り、特に民生委員からは自宅での生活は難しいと言われている。このような中、地域の方とどのように連携ととるべきか、が課題だと考える。
バイザーがこの事例で抱えている介護支援専門員としての課題（成長すべき課題）	次々に連絡が入ることの対応に追われしっており、本人を支援するチームをまとめることに課題があると考え。介護保険サービスを中止とした支援者間は問題ないが、特に地域の方々をどう支援の輪の中に入れてもらうのか、もしくは連携していくのか、が課題。

■ 指導支援の経過

年月日	バイジーの事例に対する働きかけ・困りごと	バイザーの理解・判断・働きかけ
令和 5 年 12 月●日	事例について相談あり。 本人は認知症がすすんでおり、自宅から頻回に外に出てしまい、近所の人が連れ帰ってくれている。その都度、近所の人から連絡が入る。また、民生委員からは、危険だから施設入所を考えては、という連絡があった。 実際に外に出てしまうが、本人なりの理由があり、また、本人も家族も、自宅での生活を希望しているので、民生委員にもそのように説明するが、うまくいかない。	バイジー自身、自宅から外に出ることについて、具体的なアセスメントが不足していると判断し、アセスメントを本人の視点から行うように伝える。 具体的には、支援を開始した 2 か月前からの回数、日時、その時の状況、どこに行ったのか、その理由を確認するよう伝える。また、いつから外に出るようになったのか。サービスは、週 2 回の通所介護から始め、現在は週 4 回の利用のため、その影響も検討するように伝える。 民生委員等へのはたらきかけは、上記のことが理解できてから検討することとなる。 一方で、本人や家族の意向をきちんと把握できていることを、できていることとして伝える。

※枠が不足する場合には、適宜追加して作成してください。ただし、この指導・支援シートは、全部で2ページになるようにしてください。

■バイザーの振り返り ※指導支援を通して

うまくいった点	自分だったらと言いたいことを抑えて、バイジーの理解に合わせてすすめることができた。自分の得意とする認知症ケアだけではなく、地域との連携、何よりも家族への支援という視点まで考えることができた。
苦慮した点	最初、バイジーの課題をうまくつかむことができずにいた。本人を施設に入れたいのか、民生委員から言われて困っているのか、分からず、初回の相談が一番時間がかかってしまった。
自分自身の強み	グループホームの経験もあることから、認知症ケアにはある程度知識を持っている。また、その時のつながりで、民生委員と顔の見える関係にあり、連携をとりやすい。
バイザーとしての成長課題	どうしても、バイジーが行ってきた支援に対して、白黒をつけてしまう傾向がある。特に、自分が得意としている認知症ケアに関わると、ちょっと熱くなってしまう。バイジーの立場に立ち、バイジーがどう困っているのか捉えることが課題だと考える。

この記載例は、一般社団法人茨城県介護支援専門員協会が作成したものを使用しています。